

30年後に残したい おすすめの一冊

～いまのわたしから 30 年後のあなたへ～

こころの本棚でずっと大切にしている…そんな本を、本好きな大野城まどかぴあ館長と日々本に触れている司書たちがご紹介します。

大野城まどかぴあ館長
林田 スマ のおすすめ



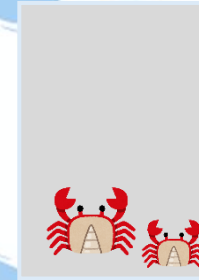
『家庭という学校』
外山 滋比古／著
筑摩書房

※当館では大活字本(通常よりも大きな文字の本)で所蔵しています。【WD 379.9 ト】

外山滋比古さんの『家庭という学校』に子育ての極意を改めて学んだ。“学校という学校”はあるが、“家庭という学校”も必要だという。

「小学1年生の頃、自転車乗りを教えてくれた父が『ころばずに乗れるようになったものはいない、ころんでいいのだ』と言った。それから、ころびかたというものを覚えた」それから30年、こちらが、自転車に乗る子の親になった」と外山さんは振り返っている。

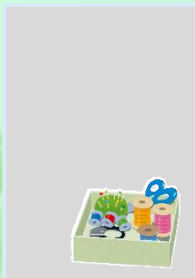
私も、よくころんだが、その度に祖母や母の「大丈夫」で起き上がった。「人生とは自転車のようなものだ」というアインシュタインの名言が重なって聞こえる。



『宮沢賢治コレクション 2』
宮沢 賢治／著
筑摩書房
【918.6 ミ】

「クラムポンはわらったよ」というセリフで有名な『やまなし』は小さな蟹の兄弟が主役の短いおはなしです。初めて読んだ子供の頃は地味に感じましたが、成長するにつれて蟹の可愛さ、描写の美しさに気付きあっという間に大好きに。何度も読み返してはきらめく川の世界に感動しています。

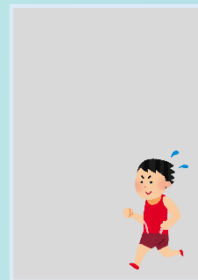
作者の没後 90 年を超えて愛され続けている作品ですが、これからも長く愛されてほしい一作です。このほかにも表題作の『注文の多い料理店』など宮沢賢治の繊細な世界に触れられる一冊となっています。(F)



『お洋服リフォーム支店』
あんびる やすこ／作・絵
岩崎書店
【F アン】

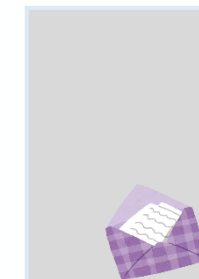
主人公の女の子ナナは森の中にあるレンガ造りの古い家を見つけました。その家では、おさいほう魔女のシルクが「なんでも魔女商会 お洋服リフォーム支店」を営んでいて…。

小学生の頃、挿絵の素敵なデザイン画に目を奪われました。この本をきっかけに手芸に興味を持ち、現在レジンやクラフトバンドをしています。すでに 20 年愛されている本ですが、これからもずっと残したい本です。(S)



『風が強く吹いている』
三浦 しをん／著
新潮社
【F ミウ】

ボロアパートに住むほぼ素人の学生 10 人が無謀にも箱根駅伝出場を目指す物語。二度目に読んだ直後の 2015 年、青山学院大学が初優勝。以来、毎秋出雲駅伝の頃から希望に満ちた読後感を求め、読み返し、正月を心待ちにしています。駅伝小説はどれも読んでいて自分も走れそうな気分になりますが、福岡国際マラソンのランナーを沿道で一瞬見送り、風を感じて満足しています。(M)



『ツバキ文具店』
小川 糸／著
幻冬舎
【F オガ】

舞台は鎌倉。代書屋を営む雨宮鳩子(通称ポッポちゃん)が、様々な依頼に応えながら、人々との温かい交流を通じて成長していく物語です。

この本と出会ったのは、地元の図書館でした。あれから 10 年経った今も鎌倉の情景が目につかび、ずっと浸っていたくなる世界観があります。今度鎌倉へ行くときは、文庫本をカバンに忍ばせて聖地巡礼を楽しみたいですね。(A)

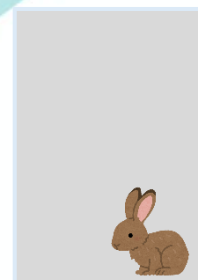


『カレーライス』
重松 清／著
新潮社
【YA F シゲ】

「ぼくは悪くない。だから、絶対に「ごめんなさい」は言わない。」父と喧嘩した小 6 の男の子のセリフで物語は始まります。

最初は、息子の国語の教科書。二度目は、まどかぴあ図書館で出会いました。子ども目線で書かれていますが、私は親目線で読みました。他、8 編の短編集です。

いつの時代も変わらない親子関係。私は 30 年後に読んでも同じ感動を受けると思います。(Y)



『はなはなみんみ物語』
わたり むつこ／作
本庄 ひさ子／絵
リブリオ出版
【F ワ】

こびとの双子の兄妹、はなはなとみんみが、豊かな自然の中で成長していく 3 部作の 1 巻目です。はなはなとみんみが「トベリーノ トベリーノ ドンドン」と唱えると、なんと空を飛べるのです！

この本を手にしたのは小学 4 年生の頃で、やさしさに満ちた文章とやわらかな挿絵に惹き込まれ、こんな世界があったらなあとき躍らせていました。(M)



『タテ書きはことばの
景色をつくる』
熊谷 高幸／著
新曜社
【811 ク】

この本は、現代人が当たり前のように使い分けている縦書きと横書きの分類の根拠を科学的な実験データをもとに考察しています。この本を通して、日本に根強く残っている縦書きの文化に興味を持ち、大学で「縦書きの文化が現代人に与える影響」というテーマで論文を書きました。縦書きの文化は、日本人の言語観や美意識、文化的体験と深く関わっていることを教えてくれた一冊です。(H)